

欠席委員による事前質問及び回答

資料	資料 1: 令和 3 年度当初予算(案)の概要について	
ページ	質問内容など	回答番号
4	給水人口をみると前年度と比較し 0.9%減少しているが、一方、年間配水量では 0.1%減となっています。性質の異なる減少率を比較するのはあまり意味がないかもしれませんが、給水人口と比べ年間配水量の減少率が縮小(緩和)されている理由を教えてください。単身世帯数の増加なども関係あるのでしょうか。	①
	また、令和 2 年度の新型コロナウイルス感染症の影響により年間配水量の実績(見込み)はどの程度減少したのか教えてください。	②
	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ計画値を見直す予定はありますか。	③
5	令和 2 年度の水道事業収益について、令和元年度と比較し新型コロナウイルス感染症の影響によりどの程度影響があったのか教えてください。	④
30~34	令和 3 年度の経常収支比率、料金回収率をみると目標値を下回るようです。その理由を教えてください。	⑤
	財政計画比較(指標)の長期的な経年変化を把握したいのですが、例えば過去 10 年分の経年変化図を提供いただくことは可能でしょうか。	資料提供
	資料に掲載されていない指標(企業債残高対給水収益比率、給水原価等)についても開示していただけないでしょうか。	
37・7	配水量のうち無効水量が 7.5%あります。このうち多くが漏水等によるものです。収益の健全化を考えると漏水等を可能な限り少なくし収益に結びつけることが大切だと考えます。	⑥
	スライド 7 予算にある漏水対策費の予算は減額しているようです。漏水対策と収益化のコストバランスをどのように考えているのでしょうか。	⑦

質問

スライド4ページ

給水人口をみると前年度と比較し0.9%減少しているが、一方、年間配水量では0.1%減となっています。性質の異なる減少率を比較するのはあまり意味がないかもしれませんが、給水人口と比べ年間配水量の減少率が縮小(緩和)されている理由を教えてください。単身世帯数の増加なども関係あるのでしょうか。

回答①

世帯数の増加や、複数世帯より単身世帯の一人一日平均の使用水量(洗濯やお風呂などの使用実態)が多くなっていることも一因と考えています。

令和2年度決算見込額は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより商業施設などで使用される業務用の水量が減少したことなどにより、水量が減少すると見込んだものとなっていますが、令和3年度当初予算は、感染症の影響が不透明なため考慮しない水量となっています。

質問

また、令和2年度の新型コロナウイルス感染症の影響により年間配水量の実績(見込み)はどの程度減少したのか教えてください。

回答②

配水量は、天候や経済状況など様々な要因で変動しますので、新型コロナウイルス感染症の影響は明確ではありませんが、令和元年度と比較すると12月末までで、約24万8千 m^3 の配水量が減少しています。

調定水量(使用水量)の前年度比較では、住宅地では増加し、商業地域・工業地帯では減少傾向が見られます。

質問

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ計画値を見直す予定はありますか。

回答③

第4次水道事業総合計画は、第11次財政計画の策定時の令和3年度後半から令和4年度にかけて見直しを行う予定となっています。

その際には、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら計画の見直しを行って参ります。

質問

スライド 5 ページ

令和 2 年度の水道事業収益について、令和元年度と比較し新型コロナウイルス感染症の影響によりどの程度影響があったのか教えて下さい。

回答④

先ほどの質問と同様で、新型コロナウイルス感染症の影響のみを抽出することは難しいですが、給水収益については、令和 2 年度 12 月補正予算において、消費税込み 3,100 万円ほどの減額補正をしています。

前年度と比較して、飲食店やホテル、デパートなどの業務用や工業用の使用実績は減少し、家事用の使用水量は増加している状況です。

質問

スライド 33 ページ

令和 3 年度の経常収支比率、料金回収率をみると目標値を下回るようです。その理由を教えてください。

回答⑤

ご指摘の指標は、収入と支出のバランスによって変わってきます。

令和 3 年度の数値が目標を下回った主な理由といたしまして、計画当初想定していなかった事業の追加によるものです。

八戸市の市道においてこれまで水道管を更新する際に古い水道管を地中に残したまま新しい水道管を埋設してきましたが、令和 3 年度から古い水道管を撤去しなければならなくなったため、その分の工事費用が約 3 億 3,300 万円（消費税込み）増額になったため、当該指標において目標値を下回る結果となっています。

質問

財政計画比較(指標)の長期的な経年変化を把握したいのですが、例えば過去 10 年分の経年変化図を提供いただくことは可能でしょうか。

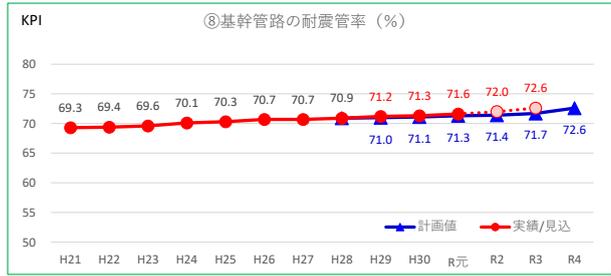
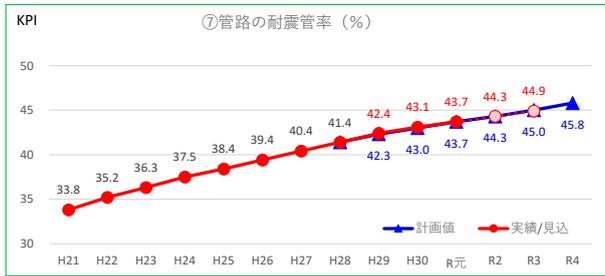
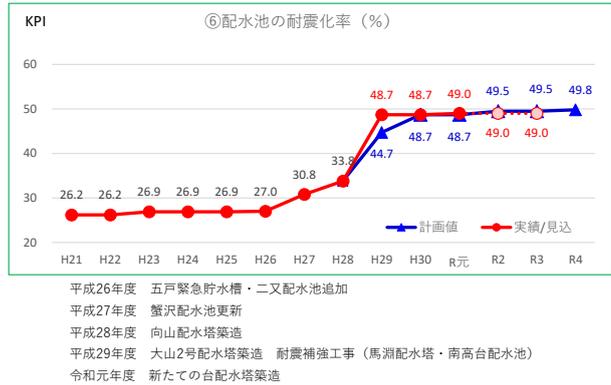
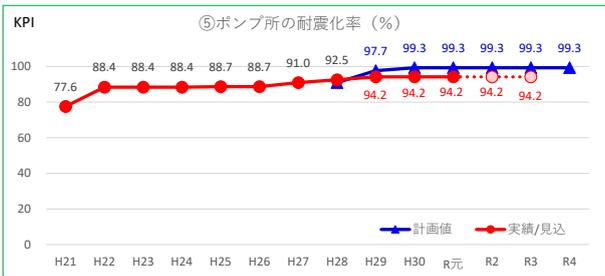
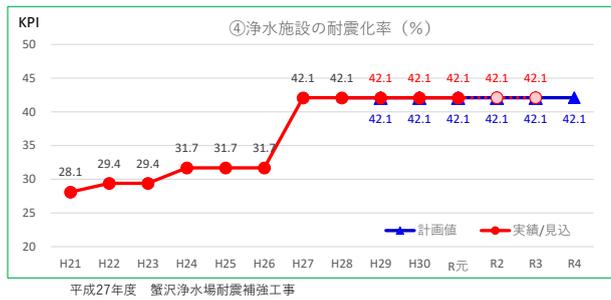
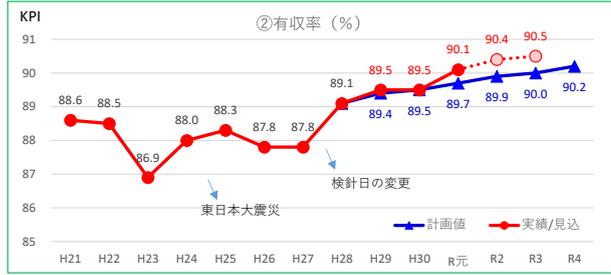
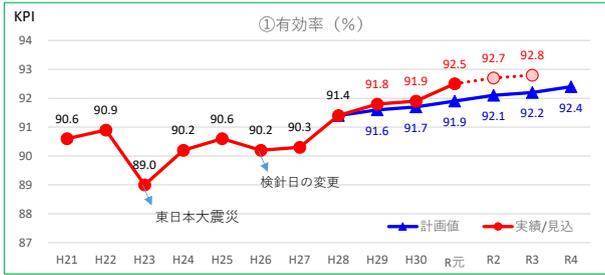
質問

資料に掲載されていない指標(企業債残高対給水収益比率、給水原価等)についても開示していただけないでしょうか。

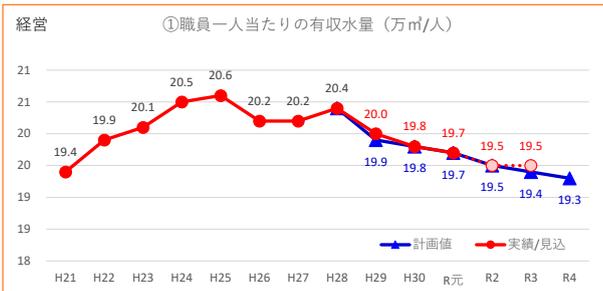
回答

資料として、ご用意しました。

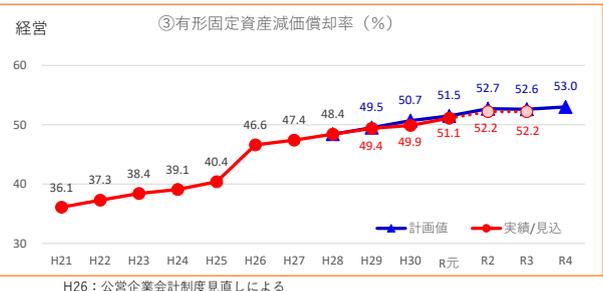
財政計画比較(指標)の経年変化



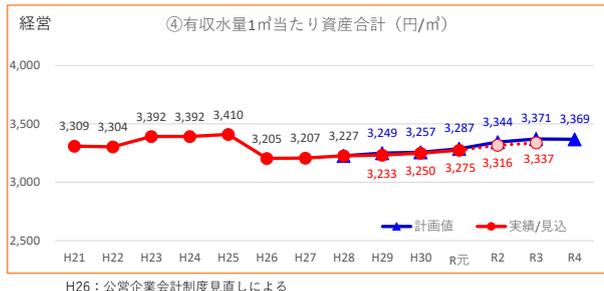
⑨重要給水施設管路の耐震化率は、以前のデータがありません。



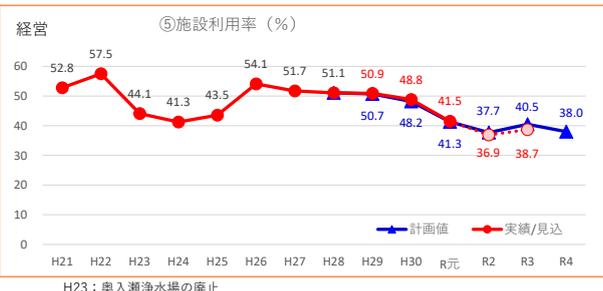
H22：公的資金補償金免除線上償還による企業債償還元金の増
H26：公営企業会計制度見直しによる



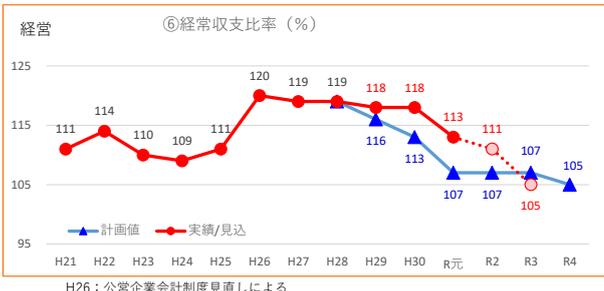
H26：公営企業会計制度見直しによる



H26：公営企業会計制度見直しによる



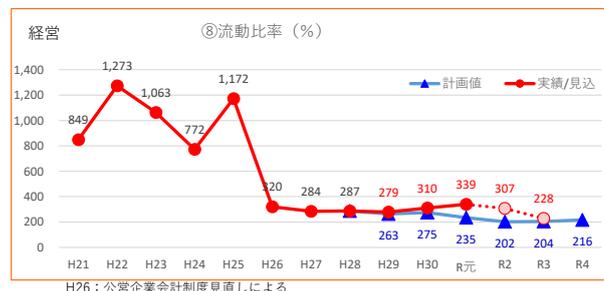
H23：興入瀬浄水場の廃止
H26：公営企業会計制度見直しによる



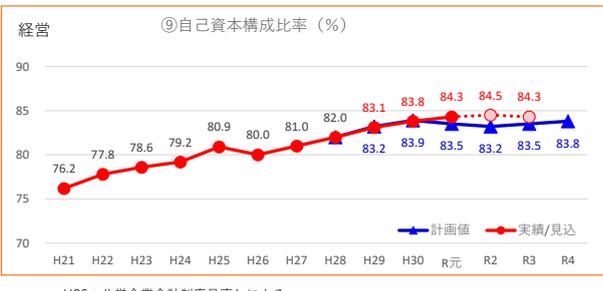
H26：公営企業会計制度見直しによる



H26：公営企業会計制度見直しによる

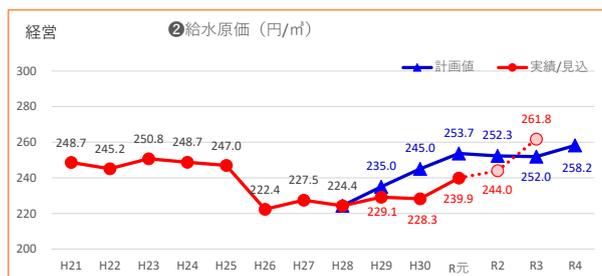
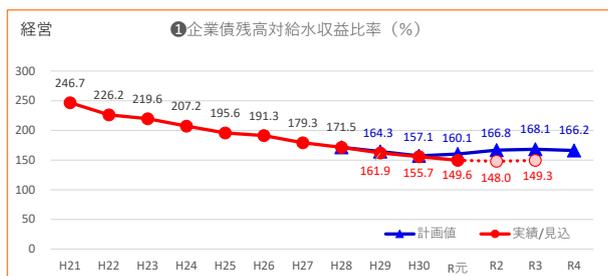


H26：公営企業会計制度見直しによる



H26：公営企業会計制度見直しによる

資料に掲載されていない指標(企業債残高対給水収益比率、給水原価等)の経年変化



ご意見

スライド 37 ページ

配水量のうち無効水量が 7.5%あります。このうち多くが漏水等によるものです。収益の健全化を考えると漏水等を可能な限り少なくし収益に結びつけることが大切だと考えます。

回答⑥

企業団としましても、漏水量等減らすことは効率的な事業運営のためにも必要と考えています。

計画的な漏水調査、迅速な修繕や古くなった水道管の更新などを行って参りました。

このことにより、無効水量は、企業団発足時の昭和 61 年度(1986 年度)は 4,795,855 m³(15.3%)から令和元年度 2,309,638 m³ (7.5%)まで減少しています。それに伴い、有収率は 79.2%から 90.1%まで向上してきています。

質問

スライド 7 予算にある漏水対策費の予算は減額しているようです。漏水対策と収益化のコストバランスをどのように考えているのでしょうか。

回答⑦

漏水対策費の予算には、漏水調査や修繕費用などが含まれています。

また、老朽管を更新することにより、漏水減少に繋がると考えています。

令和 2 年度予算は、配水管の漏水修理に係る費用（八木田配水池での配水管漏水修繕費 1,035 万円など）が多くなっておりませんが、令和 3 年度予算は、ほぼ財政計画通りの計上としています。

今後も、漏水対策について継続して取組んで参ります。